

令和元年度 国立中央青少年交流の家

富士のさと わくわくキャンプ ～夏編～

「わくわく体験」を通して、羽ばたく力を身につけよう

令和元年9月28日(土)～9月29日(日) 1泊2日

○目的

わくわくするような体験活動を通して、子供たちが自主性・協調性・基本的な生活習慣などを養い「生きる力」を身に付ける。

ボランティア養成研修の参加者等が身に付けた内容を子供対象のキャンプで実践しボランティアのスキルアップを図る。



【セッションごとの話し合い】

○本事業の仕組み

当所で養成したボランティアを中心に子供対象のプログラムを企画・立案し当日の運営を行う。

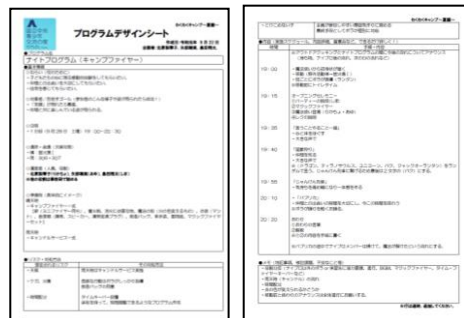


【実地踏査の実施】

○キャンプの企画立案

ボランティア16名と社会教育実習生8名を6つのセクションに分け、セクションごとにお互いにメール等で情報共有しながら、以下のことを行った。

- ・プログラムの選定、構成
- ・プログラムデザインシートの作成
- ※ねらいや手順、想定されるリスクと対応などを記載
- ・職員を交えてセクション別のミーティング
- ・全体進行表、セクション別日程表の作成
- ・実地踏査の実施 等



【プログラムデザインシート】

○キャンプ当日の運営

当日の運営は、ボランティアと社会教育実習生、合わせて24名が担った。スタッフは前日から宿泊し、準備や試作、最終的な打ち合わせを行って参加者を出迎えた。今回の参加者は静岡県東部4市と山梨県の小学校4～6年生27名であった。

1日目【9月28日(土)】



《はじめの会》

よろしくね!のごあいさつ



《アイスブレイク》

グループごとに自己紹介



《プログラム①》

協力してミッション達成を目指せ



《アウトドアクッキング》
カレー&ナン 力を合わせて！



《楽しい食事タイム》
みんなで食べるとおいしいね！



《ナイトプログラム》
みんなでひとつの輪になって

2日目 [9月29日(日)]



《朝の様子》
ラジオ体操で一日の準備を



《プログラム②》
思い出を焼き板にしたよ！



《おわりの会》
楽しかった！また会おうね！

《参加した子供の声》 ※一部抜粋

- ・初めて参加したけど、楽しかったからまた参加したいと思った。
- ・知らなかった人とも仲良くできて協力できてとてもうれしかった。
- ・子どもだけでテントで寝たり火おこしから料理を始められたりして楽しかった。
- ・ボランティアのみなさんに感謝でいっぱいです。



○キャンプを終えて

《企画メンバーの感想》 ※一部抜粋

- ・初めてボランティアとして企画・運営に携わったので、不安もたくさんあったけど、子供たちのわくわくのため、やってみよう精神で自分から動き出すことを意識した。
- ・雨プログラムまでしっかり考えることができていたので、不安なくキャンプに取り組めた。
- ・1泊2日のキャンプは短い、と感じたが、それでも子供たちから「帰りたくない」「また絶対来る」という言葉が聞けてとてもうれしかった。

《成果と課題》

参加者の『わくわく体験』を支えるために、ボランティアは1か月前から企画・準備をすすめ、全体での情報の共有化を図った。そのことが当日の子供たちへの積極的な関わりに結びつき、笑顔あふれるキャンプへと繋がった。

今後、ボランティアにはさらなる自主企画事業を行えるよう、研修の充実や活躍の場の提供など、成長に繋がるような環境を整えていきたい。